

2024 年 5 月 30 日

通貨ニュース

インド：米大手格付機関がインドの外貨建て長期債務の格付見通しを上方修正

5 月 29 日、米大手格付機関 S&P Global は、インドの外貨建て長期債務の格付見通しに関し、従来の「安定的」から「ポジティブ」に変更した。なお、格付そのものは「BBB-」で据え置かれており、投資適格級では最も低い格付となっている。大手格付会社 3 社からの評価を比較すると、いずれも格付は同等水準ではあるものの、見通しは今回の決定で S&P Global が一歩前に踏み出した格好である。本欄では、S&P Global の公表資料を基に、格付見直し変更のレビューおよびインド金融市場への影響度を簡単に説明したい。

金融市場部
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

公表資料の冒頭、「Overview」を確認すると、決定の土台となるインド経済に対する評価は以下の通りである。(1) 健全な経済基盤に支えられた力強い成長、(2) 経済政策と財政政策の継続性、(3) インフラ支出の増加とそれによる成長率の押し上げ、(4) 財政再建に対するコミットメント、の 4 点に集約される。なお、インドでは現在総選挙が行われており、6 月初旬には集計が開始され大勢が判明する見込みだが、S&P Global は「選挙の結果に関わらず、経済政策と財政政策は幅広く継続すると予測する」としており、それほど選挙結果を重要視していないようだ。そもそも、世論調査に基づけば、与党の勝利とモディ首相の 3 期目突入が高い確度で見込まれており、S&P Global としてもそのような前提を置いていると考えてよいだろう。

上記のうち、(1) に関しては、人口の伸び、そして人口動態などを背景に、「中国の次の世界経済のけん引役」として高い期待を受けていることは、本邦でも度々報道されている。国際通貨基金 (IMF) も、4 月に公表した世界経済見通し (WEO) において、24 年度の実質 GDP 成長率見通しに関し、1 月時点の +6.5% (前年比、以下同様) から +6.8% へ +0.3% ポイント上方修正している。他方、(2) ~ (4) に関しては、2 月に示された本年度の暫定予算案を受けた評価だろう(*)。同暫定予算案で市場の注目を集めたのは、24 年度の財政赤字見通しに関し、5.1% (GDP 対比) と設定されたことだ。ブルームバーグが事前に調査したコンセンサスでは、5.3% となっていたことから、債券市場にとっては良いサプライズとなったことも記憶に新しい。シタラマン・財務相は暫定予算案公表のプレゼンにおいて、モディ首相の功績をたたえとともに、インフラ支出などを通して貧困層、農村民などへの支援を前面に押し出している経緯もあった。

市場への影響としては、公表直後に小幅ながら金利低下 (債券価格上昇)、そして INR 高で反応したことからわかる通り、基本的にポジティブだ。上述の通り総選挙開催期間中で、インド金融市場もやや神経質な展開が目立っていたこともあり、平時であればより大きな好材料として市場で消化された可能性もある。なお、短期的のうちに格付そのものが引き上がるとは想定していないが、上述の暫定予算案で示された通りに財政赤字が圧縮され、加えてインフラ支出が実行されれば、今後 2 年のうちに格付引き上げも十分に射程圏内に入る。

*詳細は、2024 年 2 月 2 日発行の通貨ニュース、『インド: 来年度暫定予算案公表を受けて～財政赤字縮小へ意欲を示す～』をご覧ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。